

平和・人権
社会・宗教
政治と暮らし
分かち合い

共に生きる

はづき
葉月
8
2016

No.70

発行/〒806-0049 北九州市八幡西区穴生1-8-10 / 瀬下幸弘 FAX093-622-1290

日本漫画家協会
日本漫画家会蔵



にしやま すすむ
西山 進

参院選投票結果は

改憲勢力が3分の2を占める



安倍首相は選挙中、「改憲」を隠し続け、選挙後は「改憲」を言い出す。またしても国民だましか！

NHKの番組で安倍首相が「いよいよ憲法審査会に議論の場が移る。議論し、どの条文をどう変えるか…」(7月10日)と発言しています。これは首相自身「憲法改正を参院選では争点にせず、選挙後に憲法審査会で検討する」と述べていたわけですが、これ自体理に合わないものです。なぜなら、国会で「憲法改正」を議論するのなら「憲法改正を議論するための国会議員を選挙で選びましょう」と言わなければならぬはず。選挙結果を受けて「改憲」が前面に出てきました。だまし打ちです。

もう一度自民党改憲案を振り返ってみましょう。憲法前文から国民主権や恒久平和を削除しています。憲法9条では戦力不保持を消して「国防軍」を入れたり、「基本的人権」が削除され「公益・公の秩序に反してはならない」とすり替えられています。結局安倍首相の「憲法改正」とは、実は「平和憲法破壊案」であると言えます。その「平和憲法破壊案」＝「自民党案」が国会の憲法審査会で土台となって議論されようとしています。改憲勢力が国会で3分の2を占めても、「アベ政治を許さない」声をこれからも続けていきましょう。漫画家西山進さんが、「ご自身の漫画しんぶんNO.90でわたしたちに呼びかけています。「もっと過去の歴史を勉強して何とかしよう。まだ間に合うよ」と。

「西山進の漫画しんぶんNO.90」

だれも許さなさんだ！

2016.7.10

今月号に
差し込み

西山さんから頂きました。今わたしたちがけっして忘れてはならない歴史と、これからの若者たちに伝えねばならない内容です。多くの方に広めてください。(編集部)

相模原障がい者施設で殺傷

7月26日

入所者19人が死亡

あまりにも残忍で冷酷な犯罪に言葉を失います。「障がい」があるなしにかかわらず、命を奪うことは絶対に許されません。

8月の講演・集会案内

- ◆8月6日(土)下関アムネスティ(市民活動センター)…14時
第31回市民平和ウォーク(下関市民会館)…16時行進
- ◆8月7日(日)北九州平和の集い(カトリック小倉)…13時
14時40分…平和講演(浜口司教-大分)
- ◆8月13日(土)平和集会(日本キリスト教団) …10時半
…講師:村本 新日教師(筑後福島教会)
- ◆8月15日(月)平和集会(日本バプテスト連盟北九州地方連合)10時半
- ◆8月21日(日)朗読と音楽の平和コンサート
(小倉南生涯学習センター) …14時

世界人権宣言(谷川俊太郎訳)

第19条 言いたい、知りたい、伝えたい

わたしたちは、自由に意見を言う権利があります。だれもその邪魔をすることはできません。人はみな、国をこえて、本、新聞、ラジオ、テレビなどを通じて、情報や意見を交換することができます。

イチイチ祈りの会8月は
北九州平和の集い(8月7日、小倉)に
参加することにします。13時より

沖縄・辺野古レポート(その7)

(元中学校教員 池村好順)

沖縄県民と連帯の気持ちを新たに

翁長知事は、辺野古新基地建設に関わる裁判でこう語りました。

「第二次世界大戦では、国内で唯一凄惨な地上戦が行われました。戦後、ほとんどの県民が収容所に収容されている間に土地の強制接收が行われ、普天間飛行場をはじめ米軍基地が形成されました。その後も『銃剣とブルドーザー』で土地を強制的に接收されました。サンフランシスコ講和条約による日本の独立と引き換えに米軍の施政権下に差し出されました。沖縄が米軍に自ら土地を提供したことは一度もありません。そして戦後70年以上が過ぎ、今度は自国の政府によって『銃剣とブルドーザー』をほうふつとさせる方法で美しい海が埋め立てられ、耐用年数200年ともいわれる沖縄で初めての国有地の基地が造られようとしている沖縄の現実を知っていただきたいのです。・・・ 沖縄県民は自由・平等・人権・自己決定権をないがしろにされてきました。私は『魂の飢餓感』とよんでいます。・・・ 戦後70年以上、重い基地負担を負わされてきた沖縄県に、新たな基地を造る必要性が本当にあるのでしょうか。…略……。」
(「国地方係争処理委員会での意見陳述」16年4月)

翁長知事のこの訴えは、すべての沖縄県民を代表したものだと思います。沖縄に米軍基地がある故に、沖縄の人々は、「辱められ、虐げられ、奪われ、殺され



イメージ図(代替施設事業パンフより)

・・・図辺野古の海を埋め立てたら巨大軍事施設が・・・

て」きました。その悲惨な歴史を真摯に受け止めるならば、「これから200年、新基地と共存せよ」と、沖縄県民に向かって誰が言えるでしょうか。安倍首相には、沖縄県民のこの「魂の叫び」が聞こえないのでしょうか。

最後に、辺野古新基地の全貌を是非知っていただきたいと思います。

「2本のV字型滑走がつくられ、辺野古弾薬庫に加え、滑走路上に弾薬搭載エリアが設置されます。出撃の際、弾薬補給がすべて辺野古で可能になり、更に、普天間にない港湾施設・全長271メートルの護岸が造られます。米海兵隊を戦地に運ぶ3万トン級の強襲揚陸艦が接岸可能になります。耐用年数は200年といわれ、21世紀どころか23世紀まで居座る最新鋭の恒久基地となります。」

つまり、老朽化した普天間基地を一変させ、最新鋭の一大出撃基地に造り替えようとするのが辺野古新基地建設の真相です。加えて、この新基地建設費用は「ロードマップ」で合意されたように、すべて日本政府が負担します。日本国民の血税で米軍新基地をつくり、自ら米軍に差し出すという計画です。もし辺野古新基地建設をこのまま認めてしまったら、これからはいつでも米軍の要求通りに基地を差し出すことにもなりかねません。沖縄県民がオール沖縄として断固反対に立ちあがっている背景には、こうした深刻な理由があるのです。

間もなく6月23日の沖縄「慰霊の日」がやってきます。71年前、一般住民を巻き込み20万人あまりの尊い命が奪われた沖縄戦。その時、沖縄の人々は悲惨な戦争を体験させられました。そして戦後、日本復帰までの間アメリカ施政権の下で、辛苦の日々を強いられました。そして日本復帰後も米軍基地の重圧に苦しんでいます。こうした状況のもとで、辺野古に新基地建設を押し付けられているのが、今の沖縄の現状です。今年も巡ってくる沖縄「慰霊の日」。沖縄戦の犠牲者の冥福を祈り、オキナワを深く学ぶ、その共感と連帯の気持ちを新たにできる日になったらと思っています。

瀬下さんには、心から感謝いたします。辺野古訪問のレポートということから始まり、そして、沖縄のことを伝える場を提供していただきました。自分の知りうる範囲の報告でしたが、改めてオキナワを見つめる大変貴重な経験となりました。(おわり)

思想・信教の自由を
守る2・11集会より

ヘイトスピーチの現状から

(その4)

在日2世の金 貞子さんのお話から



(浜矩子先生は、安倍政権の政策に、大学における文科系学部廃止の方向にあるそうで、その結果、考える力が乏しい人間、イマジネーションのあまり持てない人間がどんどん造られていく。その最大の悲劇「人の痛みがわからない、ことがヘイトスピーチの温床になると言われました。)

それから、浜先生は「出会い」という話もされました。包摂性、抱きしめる力。多様な異なる文化、伝統の違いを「互いに」ということですね。自分と違う言語、文化に対する多様性ですね。問題は多様性の拡大に伴い、それを抱きしめる力がついていっているかどうかということです。多様性はどんどん広がっているのに、いだきとめる力があるかどうかという点です。ヨーロッパのいままでの例では、多様性(言語、文化の違い)に寛容であったのに、最近「排他性」が芽生えてきている。日本の社会では、いだきとめる力はあるが、多様性が薄い。自分と違うものをなかなか認めようとしない、みんなと同じことをなかよくすることをよしとする風潮。多様性とそれを抱きしめる力の「出会い」をスムーズにしていくことが解決の糸口ですよと。

それから、正義と平和の出会いもされました。片方にとっての「正義」と、相手にとっての「正義」が噛み合わないとき戦争へと続く。イスラムの「正義」とその

他の国の「正義」が対立し戦争になっていく。今の世の中で、正義と平和がいだき合うことは非常に難しいけれどそれを可能にする道が「日本国憲法」の中にありますと言われました。「諸国民と協和(憲法前文)すること」=(イコール)それを可能にするために「戦争を放棄」する。憲法9条ですよねと。この9条が正義と平和をいだき合うことを可能にしますと話されました。だから憲法9条は世界に名だたる非常に素晴らしいものですよと。

最後に浜矩子先生が本気で語ってくださったのは、「打倒アホノミクス」です。冗談を言い出したかと思ったら、その本も出版されているようです。この「アホノミクス」を流行らせましょう、希望ある日本にするため、平和のための「陰謀」をたくらみましょう、みなさんの現場では「ドアホノミクスでもけっこうですよ」と力あるお話でした。(おわり)

アベノミクス批判

(浜矩子同志社大学大学院ビジネス研究科専門職学位課程教授。)

安倍晋三による経済政策(アベノミクス)に対しては批判的であり、「アホノミクス」「ドアホのミクス」「妖怪アベノミクス」[要出典]などと呼んでいる。(ウィキペディアより)

《アムネスティ》下関通信 (2016/8)



1945年3月遠国ブラジルで逝った実の叔母がいます。1929(S4)年、日本の移民政策で神戸港より青雲の志を抱き渡航。苛酷な開墾生活の中、第二次大戦勃発。ブラジルは連合国側に参戦、移民は棄民同然となり、日本語禁止、日本人立ち退きや襲撃が起る中、失意極まって37才の生涯を終えました。

今リオオリンピック間近のニュースが溢れています。国際アムネスティ調査部は平行してブラジル社会の人権侵害の実態を訴え続けています。リオは2014年のワールドカップや今年のオリンピック施設建設のため、住民の強制立ち退きが起り、特に貧民地域ファ

ベーラ(叔母の墓参の折、小高い丘からはファベラが見渡す限り続いて見えたのを忘れません)では、予告も代替え住宅もなく退去させられ家を失った子どもらはストリートチルドレンに陥

っています。又ブラジルは年間6万人の殺人事件が起る国、昨年リオだけで警察による過剰発砲による殺人事件は305件(犠牲者の多数は黒人)、国中に抗議の大デモが起りました。今年3月「反テロ法」が制定されたものの、こうした非暴力の抗議活動までテロ扱いされかねないものとして、法曹界、人権活動団体、知識人らが猛反対しているそうです。訪伯(ブラジル)の折訪ねたファベラの台所は、いずこも鍋類がピカピカに磨かれていて、女性たちの心意気を思い出します。

言うまでもなく、オリンピックは「人間の尊厳」を讃えるもの。開催国のこれら混沌とした社会状況を地道に調査し、支援と救済を求めて発信し続けるアムネスティ活動に、犠牲者への鎮魂と、未来社会への一筋の光をみる思いです。

(2016.7.25 アムネ下関、山県)





燃料について(続1)

「原子力発電」というと、高度な技術を用いた難しい発電方法と一般的に考えられております。しかし、発電の基本を考えて見ますとそんなに面倒な理屈によるものではないのであります。単に「お湯を沸かす」という方法で発電をしているだけなのです。火力発電の場合には、ボイラーで石炭・石油・天然ガスを燃やして水を温めて沸騰させ、そこから噴出してきた蒸気で「タービン」を回し、発電機で電気を作るのであります。つまり、蒸気力で風車を回して発電するのです。これに対して、原子力発電というのは、どうでしょうか。火力発電と、基本は同じなのです。圧力釜の中にウランやプルトニウム燃料を入れて、それを核分裂させる。そうすると非常に高い熱が出て、水を沸騰するのであります。そして、そこから出る蒸気を用いてタービンを回して発電するという仕組みであります。したがって原子力発電の場合も、「お湯を沸かして電気を作る」ものなのであります。

それでは、火力発電と原子力発電の違いは「何」が違うのでありましょか。それは、原子力発電所で燃やしている燃料が違うのであります。原子力発電所で燃やしているものは、石油・石炭・天然ガスなどではなく「ウラン」や「プルトニウム」を核分裂させて高い熱を作るという「燃やし」方をしているところが違うのです。しかし、「ウラン」や「プルトニウム」を燃やせば、必ず「核分裂生成物」、つまり「死の灰」、「放射能」ができるのであります。これは、私たちが「物」を燃やすと、二酸化炭素と灰を出すのと同じように「ウラン」や「プルトニウム」を燃やせば「放射能」・「死の灰」を出さずに核分裂させることができないのであります。すなわち、ここに原子力発電の抱えている特殊な、危険な性格があるのです。だから、火力発電所は全国どこにでも建設されておりますが、原子力発電所は、東京にも大阪にも、名古屋にもありません。

電気を最も多く使う東京や、大阪、名古屋地方などの工業地帯に原子力発電所を造れば非常に便利であり、無駄な長い送電線を敷いて電気を送る必要もなく効率がよく、経費もかからないはずで、それなのに福島第一・第二・柏崎刈羽に原発を造ったり、北陸地方の福井県若狭の遠くにばかり原発を造っているのです。これは、電力会社は、政府もそうですが、原子力発電所に事故が起これば、大惨事

になることを知っているからなのであります。日本の原子力発電は、現在まで総量約七兆kw時に達しているといわれております。そして、その電気量に比例して、「死の灰」も積もりに積もって広島原爆の約120万発分に達するほどになっており、放射能の減衰を考慮しても約80万発分の「死の灰」を作っているといわれております。考えて見ますと、私たちは、そのような「死の灰」に包まれて、暮らしている状態にあるのです。「原子力発電はきわめて危険である」という事実は最近になってわかったことではないのです。

1950年代にアメリカは最初の原子力発電所をペンシルベニア州にシッピングポート原発を稼働するとき、リスクを計算しておく必要があるということになり米国原子力委員会(AEC)が検討したことがありました。その結果が、1957年3月「大型原子力発電所の重大事故の理論的可能性と影響」(WASH-740)として公表されております。その結論によりますと、「最悪の場合、3400人の死者、4万3000人の障害者が生まれる」「15マイル(24km)離れた地点で死者が生じうるし、45マイル(72km)離れた地点でも放射線障害が生じる」「核分裂生成物による土地の汚染は、最大70億ドルの財産損害を生じる」としているのです。このレポートは、電気出力約17万kwの原子力発電所を対象としてのものであります。福島第1原発1号機単体は46万kw、2号から5号までがそれぞれ78万、6号機が110万kwですから、これらに事故が発生したらと想像すると背筋が寒くなります。米国原子力委員会が検討した「最大で70億ドルの財産損害を生じる」という金額については、当時の為替レートで見ると1ドル=360円でありましたから2兆5000億円となり、その当時の日本の一般会計歳出合計額は1兆2000億円であったところからみると、原子力事故というものは、いかに破局的であるかが理解できます。先ほどの米国原子力委員会の公表した検討結果によりますと、電気出力約17万kwの原子力発電所の事故の場合で「最悪の場合、3400人の死者、4万3000人の障害者が生まれる」「15マイル(24km)離れた地点で死者が生じうるし、45マイル(72km)離れた地点でも放射線障害が生じる」とされております。

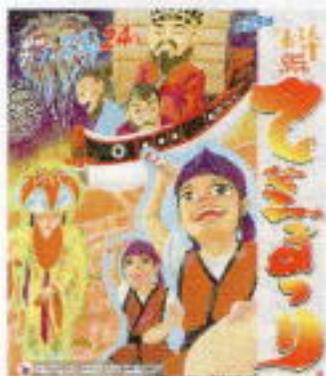
しかし、**原発事故などの場合、人間がいったいどれだけの量を被曝すると死亡するのか**ということは、従来から多くの学者などによって論議されてきた問題であります。近年よく説明されているところによると被曝量が多くなるとその多くなる量に比例して人間は死ぬ確率が高くなるとされており、その

基準として「2グレイ」つまり「2シーベルト」という量を被曝すると死ぬ人が発生し、「4グレイ」「4シーベルト」の量を被曝すると2人に1人は死亡するといわれております。この半分の人が死亡する状態のことを「半致死線」といいます。そして、「8グレイ」「8シーベルト」の量を被曝すると**全員が死亡してしまいます。**この単位に使用されている「グレイ」というのは、物理的・化学的に放射線の被曝量を測る単位であり、「シーベルト」という単位は、生物学的な被曝量を測る場合に使われる単位であります。この死亡の確率については、あの1999年9月30日の東海村JCO事故のときに被曝して亡くなられた大内久さん(当時35歳)が「18グレイ」「18シーベルト」の当量被曝で、篠原理人さん(当時40歳)は「10グレイ」「10シーベルト」の当量被曝でありました。この2人が事故後ヘリコプターで千葉市内の放射線医学総合研究所(放医研)に担ぎ込まれたのですが、「放医研」は2人の被曝量を検討し、評価した結果「もう助けられない」と述べているのです。最終的に大内さんは東大病院に運び込まれたのですが、助かりませんでした。この大内久さんについては、NHKが「被曝治療83日間の記録～東海村臨界事故」というドキュメンタリー番組を組み、岩波書店と新潮文庫の双方から出版されております。大内さんの場合には、はじめは何でもないうように見えたのに、だんだん全身が焼け爛れたようになっていったそうであります。それは、放射線で

やけどをしたからです。皮膚だけでなく身体の内側の肉も、骨も、内蔵も焼け爛れて、細胞の再生ができず、下血をどんどんして血液が失われていき、生きる力を失っていったのであります。毎日、日本の医学会が総出で治療に当たり、毎日10ℓを超える輸血と輸液を繰り返す、天文学的な量の鎮痛剤も投与されたようであります。日本の医学会が総出で大内さんを治療したから、それでも彼は83日間も苦しみながら生き延びることができたのであります。そうでなければ、2週間以内に亡くなっていたらとされております。

私たち人間の世界において、放射線を使い始めてから約100年の歴史が経過しました。その歴史の中で、人間が「2グレイ」「2シーベルト」という量を被曝すると「死ぬ人」が出始め、被曝量が多くなるにつれて死ぬ確率が高くなり「4グレイ」「4シーベルト」被曝すると2人に1人は死亡し、「8グレイ」「8シーベルト」被曝すると「全員が死ぬ」という事実が科学的に明らかになったのであります。このことは大内久さん、篠原理人さんたちが「18グレイ」「18シーベルト」と「10グレイ」「10シーベルト」の当量被曝をし、日本医学会の専門家が総出で治療に当たったのにもかかわらず助けることができなかつた事実が裏づけております。**「被曝」というのは「放射線からエネルギーをもらう」事なのであります。だから全身が焼け爛れたようになって死んでいくのです。(続く)**

てだこまつり19万人(沖縄 中)



ヘリパッド建設反対で大きく報道されている中でも沖縄の人たちは明るくパワフルです。前夜祭では、おじいちゃんバンドが盛り上げ、エイサーやダンスで大にぎわいでした。最終日は、全員でカチャーシー(手首を回しながら踊る)をし、花火で幕を閉じました。R君は花火を怖がり、弟Y君はにこにこでした。

ツイッター

平和行進6km歩きました(H)

ノーモア広島・長崎・被爆者を合い言葉に、1958年から続いている大行進。炎天下、折尾駅から黒崎駅まで30数年ぶりの参加、汗をかきました。10代から84才まで、そして韓国から青年2人も参加していました。



分かち合いのひととき

7月24日 15名参加

虹の会

次回2016年9月25日ミサ後。
どなたでもご参加ください。

「これからの未来のためにも、・・現在の危機的状況を見、未来の為に平和憲法の死守を新たに決意しなければならないと思います。」

カトリック労働者運動(ACO)冊子「働く人」101号巻頭言(ACO担当司祭大倉一美神父)をもとに分かち合いました。

参加された方々は、神父の思いに共感し、「平和を自分たちの足元からつくることの大切さ。」「子供たちを守る為、将来を担う責任を感じます。」「今まで、『事な

かれ主義』の自分でしたが、改めて平和のために声を挙げていく必要性を痛感します。」などが分かち合われました。平和旬間に向けて、神から授かった『いのち』を護るため、過去の戦争の反省に立ち、「戦争絶対反対!」と平和を守るための決意が新たにされ、豊かな時間を過ごすことが出来ました。

